

2020 年漁期の底びき網努力量の震災前との比較

福島県水産資源研究所 資源増殖部

部門名 水産業－資源管理－底びき網

担当者 山田 学・守岡良晃・池川正人

I 新技術の解説

1 要旨

福島県の沿岸漁業は令和 3 年 3 月で試験操業が終了し、同 4 月から本格操業に向けた移行期間に入った。今後、漁獲量を拡大させる合理的・効率的な操業を支援するため、底びき網漁業における操業データを解析した結果、漁獲努力量は海域全体では年々着実に増加する中、沖合漁場（300m 以深）での操業が震災前より非常に少なかった。今後は沖合へ漁獲努力量の分散を進めることで、漁場集中による資源への影響を軽減することが可能と考えられた。

- (1) 2020 年漁期の努力量、漁獲量は、操業海域全体で着実に増加していた(表 1)。
- (2) 県北部 (N37° 30'以北) では、震災前は水深 120m 以浅の海域での操業が多かったが、震災後は水深 120~160m の海域での操業が増加していた (図 1)。
- (3) 2020 年漁期の努力量は、震災前と比較し水深 300m 以深が少なく、すべて震災前の 1%以下であった(図 1)。また、より水深の深い海域の方が CPUE (1 時間曳網あたりの漁獲量)が高かった (図 2)。
- (4) 300m 以深における 2020 年の主要漁獲対象種の漁獲量を震災前(2009 年)漁期の漁獲量と比較すると、2020 年の資源利用はわずかであり、この海域を利用することで、より合理的・効率的な資源利用が可能となると考えられた (表 2)。

2 期待される効果

- (1) 具体的な資源利用方向を示すことで、資源の適切な利用につながる合理的・効率的な操業を支援することができる。

3 適用範囲

- (1) 漁業関係者、行政担当者、研究者

4 普及上の留意点

- (1) 今後の操業は、資源状況を考慮しながら、沖合や他県沖海域操業により本格操業に近づいていく必要があると考えられた。

(2) II 具体的データ等

表1 底びき網漁船の曳網時間と漁獲量の推移 (漁期は9月～翌年6月)

漁期	地区	曳網時間(時間) (カッコ内の数字は隻数)				漁獲量(トン)			
		沖底(県北部)	沖底(県南部)	小底	合計	沖底(県北部)	沖底(県南部)	小底	合計
震災前3 漁期平均	全海域	64,344(29)	22,631(11)	27,979(21)	114,954	6,054	2,254	1,397	9,705
	福島沖	28,221	17,950	26,140	72,311	2,540	1,688	1,305	5,534
	2012	2,319(22)	—	—	2,319(22)	528	—	—	528
	2013	2,892(23)	278(8)	188(6)	3,358(37)	622	57	33	712
	2014	3,793(23)	485(8)	344(6)	4,622(37)	655	67	42	764
	2015	4,309(23)	805(9)	1,292(20)	6,406(52)	668	83	151	902
	2016	4,668(23)	999(9)	1,746(20)	7,413(52)	1,036	172	269	1,477
	2017	5,435(23)	1,171(9)	2,281(20)	8,887(52)	1,198	196	352	1,746
	2018	6,286(23)	1,416(9)	2,685(20)	1,0387(52)	1,131	240	322	1,692
	2019	6,924(23)	1,968(9)	3,957(20)	1,2848(52)	1,328	285	439	2,052
	2020	8,559(23)	2,309(9)	4,011(20)	1,4879(52)	1,850	310	449	2,609
2020	震災前との比率(全海域)	13%	10%	14%	13%	31%	14%	32%	27%
	震災前との比率(福島沖)	30%	13%	15%	21%	73%	18%	34%	47%

※県北部:相馬原釜 県南部:いわき地区

※漁獲量は標本船日誌と統計値で大きい方の値を採用した

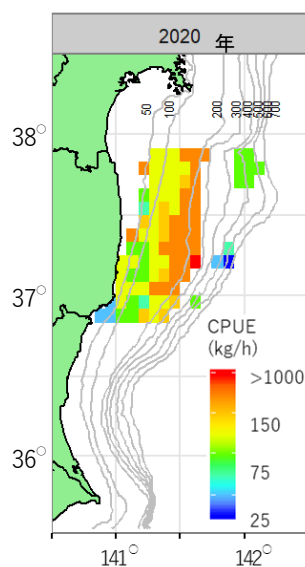
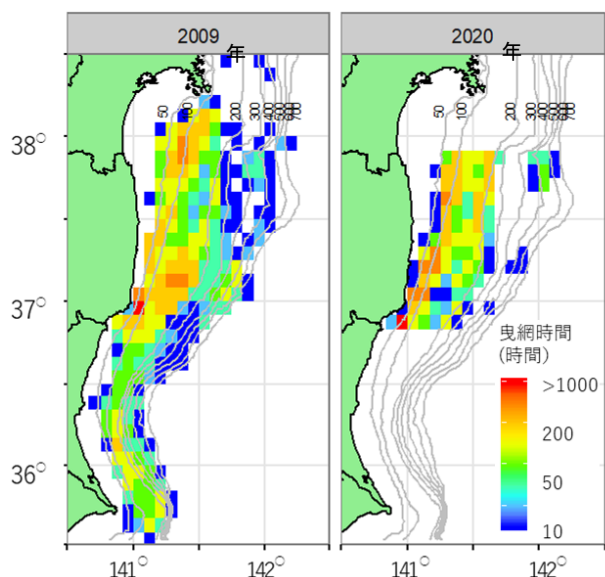


表2 底びき網標本船から推定した300m以深の全船漁獲量

魚種	2009	2020
アカガレイ	102	0.5
キチジ	207	6
マダラ	123	0.6

単位: トン

図1 底びき網全船の漁獲努力量分布図 図2 CPUE 分布図
※2009年漁期は抽出からの引きのばし、5分メッシュ

III その他

1 執筆者

山田学

2 成果を得た課題名

(1) 研究期間 令和3年度～令和7年度

(2) 研究課題名 沿岸性底魚類の生態と資源動向の解明

3 主な参考文献・資料

(1) 山田学他:底びき網漁業の漁場の偏りによる資源状況の変化、令和2年度普及に移しうる成果.